

公明党議員団視察報告書

2018年4月24日

貝塚市議会議長 殿

参加者 北尾 修
谷口美保子
前園 隆博

【視察先】

1. 埼玉県戸田市

日 時 平成30年4月9日(月) 午後1時～3時
場 所 戸田市役所
面 談 者 政策秘書室長 梶山 浩 氏
視察内容 シティセールス戦略についての視察

◎平成20年に自治体シンクタンクとして「戸田市政策研究所」を設置

人口争奪戦とも言える都市間競争の時代を勝ち抜くためには、市全体の政策形成力の向上が不可欠の要素となるため（特に若手職員の人材育成）、設置することになりました。

トップマネジメント機能の強化、及びトップ層の政策決定の補佐機能の充実のために部に属さない市長直轄組織となりました。

◎「戸田市政策研究所」が中心になって、シティセールスに関する研究

平成23年に5ヶ年の「戸田市シティセールス戦略」を策定しました。さらに、平成28年には「戸田市シティセールス戦略改訂版」を策定しました。

◎ターゲットの絞り込み

平成22年度に目白大学との共同研究で、「戸田市人口移動実態調査」を行った。内容としては、戸田市に転入・転出した人にどの地域から転入してきたか、転入理由、転出先や転出理由などのアンケートを取り、そこからシティセールスのターゲットの絞り込みをしました。どの地域からどのような年代の人を呼び込むか、明確なターゲットを絞り、呼び込む仕掛けを作ることが重要で、これからの時代の政策づくりはデータの活用がカギになるとして、様々な計画の前に綿密なデータ収集と分析が必要とこのことでした。そのために、あらゆる市内のデータを集約し、共有化を図ることで政策に活用しているとのことでした。

◎インナープロモーションで育むシビックプライド

人口を維持していくためには、既存住民も転出予備軍であることに配慮して、郷土愛を育むことが重要であると考えました。そのために、市民や事業者が一体となって

様々な記念事業を実施することで当事者意識に基づく自負心を養い、郷土愛の向上を図るようにしているそうです。

◎大都市近郊型自治体の価値を高める6要件

1. 便利 : 職場や学校への移動が短時間ででき、買い物などの利便性が高いまち
2. 環境 : 身近に緑と水が感じることのできる環境が存在する快適なまち
3. 安全 : 犯罪や交通事故が少なく、万全な防災体制が準備されている安全なまち
4. 医療 : 医療体制が充実し、いつまでも健康で安心して暮らせるまち
5. 教育 : 質の高い子育て支援サービスが提供されるとともに先進的独自の教育が展開され、高いレベルと安定的な学力が約束されるまち
6. 洗練 : シンプルかつデザイン化された街並みと文化や芸術で洗練されたまち

この中でも特に、子育て世代を呼び込むには5の質の高い教育が重要で、戸田市の質の高い教育は、文部科学省をはじめ全国の自治体からも注目を集めています。

★シティセールスを成功させるための5要件

- ① 明確なターゲティング
- ② 明確なターゲットが絞れたら、次に人を呼び込む新たな仕掛け
- ③ 人と人のつながりから生まれる共感や感動
- ④ コアコンピタンス（他者を上回る能力）を磨く
- ⑤ 都市イメージの更なる浸透

感想：シティセールスをするにあたり、どのように進めていくかという戦略が大変重要であることがわかりました。それには、あらゆるデータをもとに分析し、どのような仕掛けを考えるかによって、成果に大きな違いが出てくると思います。今後の貝塚市のシティセールスを成功させるために大変参考になりました。



【視察先】

2. 栃木県佐野市

日 時 4月10日(火) 午前9時～12時

場 所 県立田沼高校跡グラウンド・佐野市役所

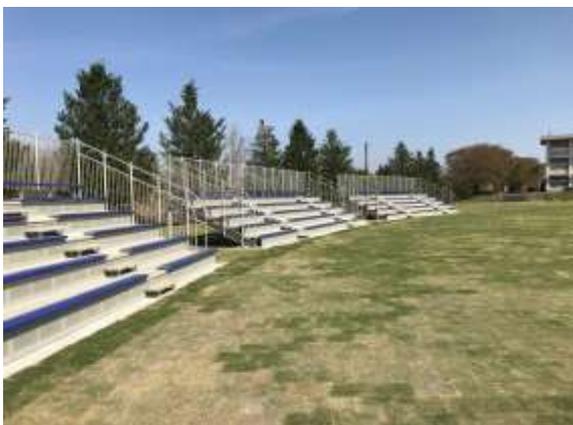
面 談 者 日本クリケット協会事務局長 宮地氏

観光スポーツ部 スポーツ立市推進課 村山係長、萱原主査

視察内容 クリケット場視察 {於グラウンド}

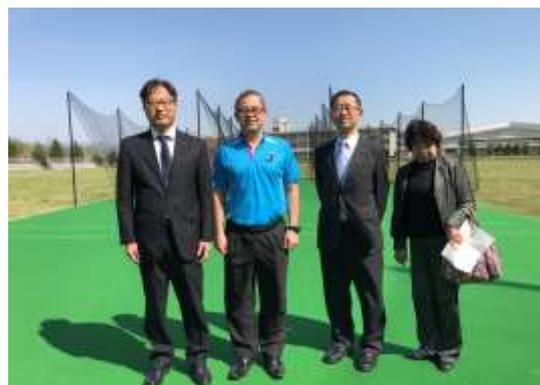
◎最初、市役所を訪問する前に、現場を見てほしいとの事で佐野市内の郊外に在る現在整備中のグラウンドを見学させていただきました。

◎男子用・女子用のクリケットグラウンド整備用の場所として廃校になった県立田沼高校跡地の運動場がロケーション的にも最高であるという事で、日本クリケット協会の協力のもと整備が始まり、先日、観客席、練習用のピッチも整備されました。



◎日本クリケット協会事務局長の宮地氏による細かい説明も聞かせて頂きました。国際仕様の競技場として、男女各1面ずつを整備されました。芝生の管理にもかなりの費用と労力を要し、グラウンド使用に関しても、どんな球技でも可能というわけではないので、市民の方への理解が必須とのことです。

◎練習用のピッチはどこにでも設置出来るので、多くの方に体験してもらえるよう設置個所は多い方が良いとの事で、試合に出るまでの練習としてクリケットを楽しんでもらうため、一人でも多くの市民に体験していただき、クリケットへの理解と周知が大切とのことです。



◎宮地氏より現在制作中のバットを見せて頂きましたが、綺麗な濃いピンクに桜の花びらが描かれた美しいもので、地元の杉を使って製作したとの事です。試作品ですが、今後、製品化を目指していきたいと語られていました。

感想；宮地氏のクリケットで佐野市を盛り上げていきたいという気持ちと市の職員とのコミュニケーションがうまくいっており、一体感が感じられました。同じ目標を持つことによる市民との協働は、大きな成果を生んでいくに違いないと感じました。

内容 クリケットによる町おこしについて {於佐野市役所}

◎「クリケットのまち佐野」のスタート

平成 19 年にクリケット協会佐野支部が駅前に誕生し、体験会、大会開催、学校訪問等を行い、平成 22 年にはクリケット協会全体の事務局機能が佐野市に移転。平成 23 年に「クリケットのまち佐野」サポータークラブが設立、平成 24 年に行政としてクリケットを「佐野ブランド」に認証し、スポーツ立市の推進リーディングプロジェクトを市長の任期に合わせて立ち上げ、スポーツツーリズムを推進する特徴的なスポーツとして、国際色豊かなクリケットが平成 27 年 12 月に決定。

◎佐野市におけるクリケット

市内小学校 19 校に 187 回の訪問、延べ 4,952 人が体験。部活動として 5 小学校で行っている。

地域クラブとして日本クリケットリーグをはじめ、U19、U15、U12 と各世代をつなぐチームが活動し、佐野社会人リーグも開催している。また、本場イギリスとの交流として、訪英団を派遣し、国際クリケット評議会と友好親善関係協定を締結する。

◎地方創生としての取組み

まち・ひと・しごと創生総合戦略として

*「新しい人の流れをつくる」スポーツツーリズムによる交流人口増大

*市スポーツツーリズム協会設立 (H28. 2月)

★平成 28 年度地方創生推進交付金 (第 2 回) の申請

*「クリケットのまち」連携強化によるスポーツツーリズム推進事業

*ソフト・ハード 5 年間 780,000 千円

*平成 27 年 12 月 旧田沼高校跡地利用基本方針の具現化 (専用グラウンド)

*ツーリズム協会の強化、マーケット調査、国内外大会、トップセールス等

*グラウンド、パビリオン整備

★条件付き採択 (事業検討調査費用として) 一律 2,500 千円

*平成 29 年度地方創生推進交付金 (第 1 回) 変更申請で「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトで日本における「クリケットの聖地」としての地域アイデンテ

ィティの確立等、スポーツビジネスとして地域経済、住民生活等への波及効果を高めていくための事業を展開。

◎平成 29 年度事業展開

- ★プロジェクトマネージャーの採用
- ★プロジェクト推進基礎調査
- ★プロモーション業務

◎現在の課題

- *旧田沼高校の校舎の利活用
- *施設の位置づけ（旧田沼高校、上記の件）
- *今後のクリケット場の整備
- *稼げる仕組みづくり

◎今後の取組み

- *マネージャーの業務内容の確認
- *プロジェクトチーム組成からコンソーシアム形成へ
- *「クリケット」のプレゼンス向上
- *市民との協働「エリアマネジメント」の実現へ
- *クリケット場整備後のオープニングイベントの開催

感想：クリケットを活用した、町おこしであり、地方創生の一環としてのクリケットとして、色々な工夫、チャレンジが必要です。未知のスポーツである為、根付くには相当の時間と労力がかかると思われませんが、貝塚市においても今後、焦らずじっくりと周知と体験を繰り返す必要性を感じました。